



クローズアップスタッフ

Produced by A.YAMAGUCHI

このコーナーは、患者様の役に立つ工夫をしている職員をクローズアップして紹介していきます。

今回は、医療相談室の伊藤ゆり子さんにお話を伺いました。

A.Y.・医療相談室ではどんな仕事をしていますか?

伊藤・ある日突然病気やケガをして、困ってしまうことがあります。たとえば…

- * 医療費が心配で病院へ行けない

- * 入院って言われてしまったけれど、子供の世話をしてくれる人がいない

- * 身の回りのことが出来なくなってしまった

- * 自宅で介護ができない

など、突然のことだけにどうしていいかわからないことがあります。これら療養生活の中でおこるいろいろな心配ごとについて、医療相談室では専門の相談員(医療ソーシャルワーカー)がお話を伺い、1日も早く安心して療養生活が過ごせるようにお手伝いをしています。また、介護保険の居宅介護支援事業所も併設していて、ケアプランに関する相談も行っています。

A.Y.・一人一人患者様の相談内容は異なると思いますが、どのようなことに気をつけていますか?

伊藤・家族のこと・病気のこと・お金のこと・精神的なこと、いろいろ込み入った話を伺う事が多くあります。それでも「話してみてよかったです」と思っていただけのように、相談に来て下さった方のお気持ちを考えながら、話が伺えるように努めています。

A.Y.・ボランティアも行っているそうですが、どのような活動をしていますか?

伊藤・当院には「玄々堂君津病院ボランティアグループ」というものがあります。活動内容としては、

- * 外来受診をされる患者様やご家族様のお手伝いボランティア

- * 入院中の患者様に声をかけていただく、お話しボランティア

- * 入院中に出かけられない方のシャンプーやカットのボランティア

- * 病棟での本の貸し出しボランティア

- * ガゼ折りなどの手作業ボランティア

- * マンマケア(乳がん治療されている方の支え合い)ボランティア

- * クリスマスや七夕コンサートのお手伝いボランティア

など、現在高校生から70代の方まで、約100名のボランティアさんが登録し、熱心な活動をさせていただいている。医療相談室では、ボランティア活動を行う方の病院の受け入れ窓口の一つとして、活動のお手伝いを行っています。

A.Y.・相談を受けたいときはどうしたらよいですか?

伊藤・利用時間は月曜日から土曜日(祝日を除く)の9時から5時30分となっております。この間に直接相談室に来ていただいてもかまいませんが、相談員が出かけて不在の場合もあります。事前に電話をいただき、お会いする日時を約束させていただく事をお薦めします。

A.Y.・お忙しいところありがとうございました。

安全対策についての取り組み

~その1~

12月13日、職員を対象とした第8回安全対策講習会が開催された。本紙では、その発表内容を抜粋し、数回に分けて紹介する。今回は、発表者・発表内容と、第一回として、川崎看護師長による看護部の取り組みを紹介する。



看護師長
川崎美千代

看護部 安全対策の取り組み

取り組んでいました。事故報告書
ひやり・はつと報告を含むの集計、
分析、事故防止対策の実施、評価を

始め4年が経過しました。報告集
計の結果、最も注意が必要なのは薬
みなどヒューマンエラーが特徴的で
ある事(特に注射)でした。内

シリーズ”病気を考える”

(40)

花粉症



医師
中川徹也

花粉症とは

花粉症は、原因となる花粉を吸い込んだために起こる病気です。空気中を飛散している花粉が鼻から吸い込まれたり、目に付着して、くしゃみ、鼻水、鼻づまり、そして目のかゆみなど典型的な症状が起ります。のどや気管の粘膜に付着した花粉がのどのかゆみや咳の発作を起こしたり、顔など露出している皮膚に花粉が付くと顔がほてったり、ビリビリしたり、湿疹や皮膚炎が起ります。鼻や口からのどに入った花粉を飲み込むと、胃や腸などがアレルギーを起こし、消化不良や食欲不振が起こることもあります。

花粉症の本態はアレルギー

人間の体には、異物を外に排除する力があり、これは通常では体を守るために働きます。しかし、この反応が強すぎると、生活や、場合により生命をも脅かすよ

うな激しい症状となります。

こうなるとアレルギーとい

うことになるわけです。

多くのアレルギーと同じ成り立ちをしていますが、花粉症を例にとって、簡単にまとめて、花粉という抗原（アレルギーの元になるもの）アレルゲンが体内の粘膜等に付くと、それを外に出そうと、ある種の細胞が集まってきて、このときにいろいろな細胞があるので、すが、様々な物質で連絡をとり合い、最終的に、たとえば鼻汁を出させて抗原を洗い出すというような症状となるわけです。最終的な原因物質抗原の確認にはアレルゲンの皮膚試験、アレルゲンの鼻粘膜誘発試験、血液検査で抗体を測定することなどが行われます。

花粉の種類と飛散時期は

現在花粉症の原因花粉は60種類以上あるといわれていますが、その多くはスギ花粉症で、特に最近はそれとヒノキ花粉症を合併するケースが多いようです。スギ花粉の本格飛散は飛散開始日から10~14日後に始まります。本格飛散は例年東京で東京ではスギ花粉飛散終了日は4月の後半ですが、ヒノキ花粉症を合併する場合

花粉症は、原因となる花粉を吸い込んだために起こる病気です。空気中を飛散している花粉が鼻から吸い込まれたり、目に付着して、くしゃみ、鼻水、鼻づまり、そして目のかゆみなど典型的な症状が起ります。のどや気管の粘膜に付着した花粉がのどのかゆみや咳の発作を起こしたり、顔など露出している皮膚に花粉が付くと顔がほてったり、ビリビリしたり、湿疹や皮膚炎が起ります。鼻や口からのどに入った花粉を飲み込むと、胃や腸などがアレルギーを起こし、消化不良や食欲不振が起こることもあります。

花粉の飛散予報などに注

花粉症増加の理由と今後

は5月中旬まで症状が続くことがあります。

花粉症の原因となつてい

るスギは、戦後に植林した

もので、30年の樹齢に達した

1970年代後半に花粉症

は急激に増加し、最近では

エンジンの排気物、都会の

コンクリート化による花粉

の再飛散、食文化の変化、

感染症の減少、抗生物質多

用による腸内細菌叢の変化、

なども原因に関与し、花粉

症は増加の一途をたどって

いるといわれています。林

業研究者によると、スギ花

粉飛散は今後10年間は1%ず

つ、増え続けると試算され

ている状況です。

中を洗つてしまふのも良い方法です。（市販の道具があります。）

まず、「一発で治る注射をしてくれる施設があるといわれていますが、たいていは大変強いステロイドホルモンという物質の注射で、副作用を考えるとあまりお

すすめできません。

次に、外科的治療ですが、手術療法は保存的治療（生活指導、薬物療法、減感作療法などで十分な効果が得られないときに考慮し、特に鼻づまりの強い場合に行われることが多いと思われます。色々な方法があります。

第1世代の抗ヒスタミン薬、ステロイド薬、漢方薬などがあります。外用薬として点鼻薬と点眼薬があり、どちらも抗アレルギー薬、ステロイド薬、血管収縮剤、抗コリン剤などがあります。

最近ではステロイドの点鼻薬が積極的に使われています。

具体的には、当院でも行

つていている方法ですが、抗アレルギー薬を本格飛散が始まる2~4週前に始めてい

ただきます。本格飛散は前

述の通り例年東京で2月下旬と予想されますので、東

京では1月下旬から2月の上旬に内服を開始するのが適当と思われます。そして4~5月まで続ける必要が

あります。実際に花粉の飛散シーズンになり、様々な

症状が現れてしまう場合は、

このほかの内服薬や点鼻薬、点眼薬を重ねます。

なお、薬局の点鼻薬が非

常に効く、とよく言われま

すが、一般的の薬局で売られ

ているものは血管収縮性点

鼻薬と呼ばれるものです。

これは最初は鼻づまりが解

消されるのですが、リバウ

ンド現象として鼻づまりが

前より悪化し、そのため

点鼻薬の使用が長期間とな

りやすいという副作用があ

ります。従って、花粉症に

対し最初に用いるべきもの

とは思えませんし、もし使

う際には非常用と考えたら

良いと思います。

最後に、少なくとも花粉

本格飛散の2週前から治療

を開始することがポイント

であることを強調して本稿

を終わります。

えられています。一般的に

は花粉などのアレルゲンを

週に1~2回皮内注射を行

います。減感作療法とは感作

された過敏になつた体質を

減らす治療法で、長期的な

治療効果が期待できると考

えられています。一般的に

は花粉などのアレルゲンを

週に1~2回皮内注射を行

います。減感作療法とは感作

された過敏になつた体質を

減らす治療法で、長期的な

